

LOBO 調査

早期景気観測

10月分 日商調査日 10月11日～20日
当所調査日 10月11日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

10月の全産業DI ▲2.6ポイント
(前月比 ▲2.6ポイント)

○中小企業の景況感

水際対策の緩和や全国旅行支援による客足の回復で、飲食・宿泊業などのサービス業や、百貨店などの小売業で業況が改善した。また、卸売業も小売業・サービス業向けの引き合い増加に牽引されて業況が改善した。製造業でも消費者向けの飲食品関連や日用品の受注増により業況が改善した。一方、建設業では、建設資材価格の高騰が続いており、価格転嫁も十分に行えず、業況悪化が継続した。感染状況が小康状態となり、売上増加が見込まれるが、資源・原材料価格高騰の長期化や、150円台まで進んだ円安などによるコスト増がさらなる重荷となり、中小企業の業況は改善を示すも力強さを欠いている。

○先行き

先行き見通しDIは▲22・2（今月

比▲1.5ポイント）。

経済活動が正常化に向かう中、設備投資などの民間工事の受注増を期待する声や建設業で聞かれた。一方で、資源・原材料価格の高騰や円安の継続、人手不足に伴う人件費増加や電気代の上昇など、数多くのコスト増要因による企業経営への影響が懸念される。さらに、欧米のインフレ対策などによる世界経済の鈍化への不安感も重なり、中小企業の先行きは警戒感が強まっている。

「関東ブロックの業況についてのコメント」

国際的なサプライチェーンの混乱が継続しており、資材や重機の納期が遅れることで人件費負担も増加している（管工事業）。

新型コロナウイルスの流行が終息に向かいつつあり、ようやく回復の兆しが見えてきた。今月から全国旅行支援もスタートするのでさらなる売上増加を期待している（宿泊業）。

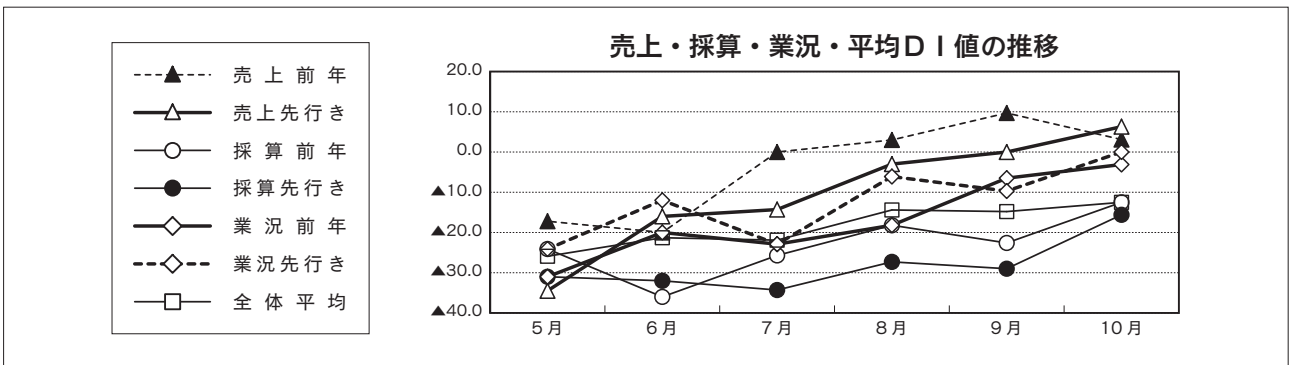
当所調査

「景況感に若干の回復がみられるものの、価格高騰、円安の影響も」

全体平均DIは▲12・5で前月に比べ2・3ポイントの改善。項目別では、採算先行き13・4ポイント、売上先行き6・3ポイントの改善が見られた。コメントには「円安で海外からの注文が殺到している」（自動車解体）、「資材関係の価格高騰で、採算が悪化している」（家具・建具卸売業）などの、価格上昇や円安の影響が功罪ともに見受けられた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和3年		令和4年					
	10月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
売上前年	3.1	▲17.2	▲20.0	0.0	3.0	9.7	3.1	
売上先行き	15.6	▲34.5	▲16.0	▲14.3	▲3.0	0.0	6.3	
採算前年	▲3.1	▲24.1	▲36.0	▲25.7	▲18.2	▲22.6	▲12.5	
採算先行き	9.4	▲31.0	▲32.0	▲34.3	▲27.3	▲29.0	▲15.6	
仕入前年	▲53.1	▲69.0	▲64.0	▲74.3	▲72.7	▲77.4	▲71.9	
仕入先行き	▲46.9	▲65.5	▲52.0	▲71.4	▲63.6	▲71.0	▲62.5	
社員前年	18.8	10.3	12.0	14.3	18.2	19.4	18.8	
社員先行き	25.0	6.9	4.0	14.3	21.2	19.4	9.4	
業況前年	▲6.3	▲31.0	▲20.0	▲22.9	▲18.2	▲6.5	▲3.1	
業況先行き	6.3	▲24.1	▲12.0	▲22.9	▲6.1	▲9.7	0.0	
資金前年	0.0	▲20.7	▲12.0	▲14.3	▲9.1	▲6.5	▲15.6	
資金先行き	9.4	▲10.3	▲8.0	▲11.4	3.0	▲3.2	▲6.3	
全体平均	▲1.8	▲25.9	▲21.3	▲21.9	▲14.4	▲14.8	▲12.5	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。